



第9回

宝塚混声合唱団音楽会

1997年6月21日(土)

開演 6:00 PM

ベガ・ホール

後援： 宝塚市 宝塚市教育委員会
宝塚市文化振興財団 宝塚合唱連盟

プログラム

La finta giardiniera	歌劇「偽りの女庭師」より
Der verliebte Italiener	イタリア式のやり方では モーツァルト作曲
Lied eines Schiffers an die Dioskuren	双子座の星に寄せる舟人の歌 シューベルト作曲
Die tote Stadt	歌劇「死の都」より
Mein Sehnen, mein Wähnen	私の憧れ、私の迷い コルンゴルド作曲
	バリトン 晴 雅彦
	ピアノ 富岡潤子
Meine Ruh' ist hin	我がやすらぎはいずこに レーヴェ作曲
Ach neige, du Schmerzenreiche	悲しみにみちた聖母様 レーヴェ作曲
Erlkönig	魔王 シューベルト作曲
	ソプラノ 井岡潤子
	ピアノ 富岡潤子

休憩

ドイツ・レクイエム	ブラームス作曲
	ソプラノ 井岡潤子
	バリトン 晴 雅彦
	指揮 大森地塩
	ピアノ 國井美佐
	山本京子
	合唱 宝塚混声合唱団

曲と歌詞

歌劇「偽りの女庭師」より イタリア式のやり方では モーツァルト作曲

変装して女庭師サンドリーナと名乗り、失踪中の恋人を探す候爵令嬢ヴィオランテの召使いロベルトも園丁のナルドと称して、ヴィオランテと共に市長の邸に雇われた。市長の愛人セルベッタは、市長の姪の小間使いであるが、あわよくば市長夫人になろうと考えており、園丁のナルドには冷淡である。第2幕でナルドは、なんとか彼女の歓心を呼ぼうとして、イタリア語で、次にはフランス語、それに英語で求愛するのだが、セルベッタには全く通じないので腹を立てる。アリアはアンダンテ・グラツィオーソで始まる。

NALUDO

ナルド

Der verliebte Italiener spricht zu dir :
 Ah, quel visetto m'ha infiammato
 il core in petto che languire ognor mi fa!
 Bist du damit nicht zufrieden?
 Nun so hör' mein Kompliment
 auf gut französisch!

イタリア流にやりますと、こう申します
 「ああ、この顔は私の胸の中なる心に火を点し
 永遠に苦悩を私に与えます」
 いかがです、お気に召しましたか。
 お気に召しましたか？
 ではお耳をくすぐるフランス流をお聞き下さい。

Ah Madame, votre serviteur,
 ah Madame, de tout mon coeur.
 Und auch dies gefällt dir nicht?
 Nun dann sag' ich dir's auf englisch fein,
 ganz fein auf englisch:
 Ah, my life, pray you, say yes!
 Ei, das ist ja zum krepieren.
 Die Geduld möcht' man verlieren.
 Weder englisch, noch französisch,
 weder deutsch, noch italienisch,
 gar nichts, gar nichts steht ihr an.
 O das eigensinn'ge Mädchen.
 niemals ist ihr's recht getan!

「ああ、マダム、ああ、マダム、
 私はあなたの召使いです。」
 どちらもお気に召しませんか。
 それでは英語でやってみましょう。
 英語でやってみましょう。
 「ああ、私の命よ、どうぞお願い、イエスと言って…」
 ちくしょう、だんだん腹が立ってきた。
 かんにん袋の緒が切れるぞ、
 英語でもだめ、フランス語でもだめ、
 ドイツ語だめ、イタリア語だめ、
 彼女はちっとも喜ばない、
 何もしないで放っとくか。

双子座の星に寄せる舟人の歌

シューベルト作曲

舟人の歌であるから、通常、男声によって歌われる。自筆譜は失われている。
 Dioskuren, Zwillingsterne,
 Die ihr leuchtet meinem Nachen,
 Mich beruhigt auf dem Meere
 Eure Milde, euer Wachen.
 Wer auch fest in sich begründet,
 Unverzagt dem Sturm begegnet ;
 Fühlt sich doch in euren Strahlen
 Doppelt mutig und gesegnet.
 Dieses Ruder, das ich schwinge,
 Meeresfluten zu zerteilen ;
 Hänge ich, so ich geborgen,
 Auf an eures Tempels Säulen.

夜空に並ぶ双子座の星よ、
 御身らは私の舟を照らしてくれる、
 御身らのやさしく見守ってくれるのが
 海の上での私の慰めだ。
 どんなにかたく自信を持って
 おそれず嵐に立ち向かう者も、
 御身らの光を見れば、
 倍の元気と祝福を感じる。
 海の潮をかき分けて
 私の漕ぐこの權を、
 こうして護ってもらっている私は
 御身らの神殿の柱に掛けよう。

歌劇「死の都」より 私の憧れ、私の迷い

コルンゴルト作曲

妻マリーに死なれたパウルは、世紀末のブリュージュ(ベルギーの都市)で、ただ彼女の思い出にひたって暮らしている。ふとしたことで、踊り子のマリエッタが彼の生活に入ってくる。彼女は不思議にも気味悪いほど死んだ妻とよく似ていて、パウルにとって現実と非現実とが悪夢となってもつれ合う。マリエッタとの異常な関係は、暴力的な終りを迎える——パウルは死んだ妻の編んだ髪で、彼女を締め殺してしまうのである。これは実は幻想的な白昼夢であることがオペラの終りで明らかになり、パウルも自分の妄執から解放されたと思ひこむのだが——オペラの結末はその彼の考えが正しいかどうかという疑問を残している。第2幕で、マリエッタもその中にいる一群の人々が、ブリュージュの街路を陽気にはしゃぎまわる。つねに道化役を演じるフリッツが、踊りのように人を揺り動かし、ひっそりと人の心に触れ、魅惑するような歌を歌ってくれと、マリエッタにせがまれる。彼は「おれのあこがれ、おれの夢想は」でその願いに応える。この歌でコルンゴルトは、回顧的な感傷性とそれからイローニッシュな背反とを、まねのできないほど鮮やかに転換させて見せる。

Fritz

Mein Sehnen, mein Wähnen,
 es träumt sich zurück.

フリッツ

おれのあこがれ、おれの夢想は
 過ぎ去った日に立ちかえる。

Im Tanze gewann ich,
 verlor ich mein Glück.
 Im Tanze am Rhein, bei Mondenschein,
 gestand mir's aus Blauaug
 ein inniger Blick,
 gestand mir's ihr bittend Wort:
 o bleib, o geh mir nicht fort,
 bewahre der Heimat
 still blühendes Glück
 mein Sehnen, mein Wöhnen,
 es träumt sich zurück.
 Zauber der Ferne warf in die Seele den
 Brand.
 Zauber des Tanzes lockte, ward komödiant.
 Foigt ihr, der Wundersüßen,
 lernt unter Tränen küssen.
 Rausch und Not, Wahn und Glück —
 Ach, das ist Gauklers Geschick …
 Mein Sehnen, mein Wähnen,
 es träumt sich zurückl, usw.

踊りの中でしあわせを、おれは
 手に入れたり、失くしたりした。
 月の光に照らされて、ラインのほとりで踊りながら、
 青い瞳のまなざしが、おれに
 心しみじみとうち明けた、
 願いのことばを、おれにうち明けた——
 「おお、ここにいて、出て行かないで頂戴、
 ここ故郷に、ひっそりと
 花咲くしあわせを見捨てないで頂戴」
 おれのあこがれ、おれの夢想は
 過ぎ去った日に立ちかえる。
 遙かな国にいざなう魔力が俺の心に炎を投げこ
 んだ。
 踊りの魔力にまどわされておれは道化役者になった。
 世にも甘美なあの人にならって
 涙ながらにキスすることを学んだ。
 有頂天と絶望、狂気と幸福——
 ああ、それが道化師の運命なんだ。……
 おれのあこがれ、おれの夢想は
 過ぎ去った日に立ちかえる。云々。

Meine Ruh' ist hin (我がやすらぎはいずこに)

レーヴェ作曲

シューベルト作曲で有名な「糸を紡ぐグレートヒェン」(ゲーテの「ファースト」の女主人公グレートヒェン)が紡ぎ車を廻しながら初恋の悩みをうたう詩にレーヴェが作曲したもの

Meine Ruh ist hin, Mein Herz ist schwer;
 Ich finde sie nimmer Und nimmermehr.
 Wo ich ihn nicht hab', Ist mir das Grab,
 Die ganze Welt Ist mir vergällt.
 Mein armer Kopf Ist mir verrückt,
 Mein armer Sinn Ist mir zerstückt.
 Meine Ruh ist hin, Mein Herz ist schwer;
 Ich finde sie nimmer Und nimmermehr.
 Nach ihm nur schau' ich Zum Fenster hinaus,
 Nach ihm nur geh' ich Aus dem Haus.
 Sein hoher Gang, Sein' edle Gestalt,
 Seines Mundes Lächeln, Seiner Augen Gewalt,
 Und seiner Rede Zauberfluß,
 Sein Händedruck, Und ach, sein Kuß!
 Meine Ruh ist hin, Mein Herz ist schwer;
 Ich finde sie nimmer Und nimmermehr.
 Mein Busen drängt Sich nach ihm hin:
 Ach, dürft' ich fassen Und halten ihn
 Und küssen ihn, So wie ich wollt',
 An seinen Küssen Vergehen sollt'!

私の安らぎは消えてしまった、私の胸は重苦しい。
 安らぎはもう二度と見つからない、もはや決して。
 あの方のいないところはどこも私にとってはお墓、
 世の中のすべてのものが私にはいとわしい。
 私のかawaiiそうな頭は狂ってしまった、
 私のかawaiiそうな心は千々に裂けてしまった。
 私の安らぎは消えてしまった、私の胸は重苦しい。
 安らぎはもう二度と見つからない、もはや決して。
 あの方の姿を求めては窓の外を眺め、
 あの方の姿を求めては家の外へと出かける。
 あの方の気高い歩み、あの方の立派なお姿、
 あの方の口のほほえみ、あの方の目の力、
 そしてあの方の言葉の魔法の流れ、
 あの方の手の握り方、そしてああ、あの方の口づけ!
 私の安らぎは消えてしまった、私の胸は重苦しい。
 安らぎはもう二度と見つからない、もはや決して。
 私の胸はあの方を求めて飛び出していく。
 ああ、あの方を掴まえ、あの方を抱き、
 口づけすることができたなら、私の思う存分に、
 あの方の口づけで私の息の絶えるほどに!

Ach neige, du Schmerzenreiche (悲しみにみちた聖母様)

レーヴェ作曲

シューベルト作曲で有名な「グレートヒェーン」の祈り々(ゲーテ作詩)にレーヴェが作曲したもの。

Ach neige,	ああ、どうぞ、
Du Schmerzenreiche,	苦しみにみちた聖母様、
Dein Antlitz gnädig meiner Not!	顔をお恵み深く私の苦しみにお向け下さい!
Das Schwert im Herzen,	お胸に剣をさされたように、
Mit tausend Schmerzen	限りない苦痛を感じながら
Blickst auf zu deines Sohnes Tod.	御子の死を見上げていらっしゃる聖母様。
Zum Vater blickst du,	父なる神に眼差しを向け、
Und Seufzer schickst du	御子と御自分の苦しみを嘆いて
Hinauf um sein' und deine Not.	溜息を天におくっていらっしゃる聖母様。
Wer fühlet,	誰が感じてくれるのでしょうか、
Wie wühlet	私の身体中が苦しさで
Der Schmerz mir im Gebein?	どんなにかきむしられているのかを?
Was mein armes Herz hier banget,	私の哀れなこの心が何を怖れ、
Was es zittert, was verlangt,	何に震え、何を望んでいるのかを
Weißt nur du, nur du allein!	御存知なのは貴方だけ、貴方お一人だけなのです!
Wohin ich immer gehe,	たとえどこに行っているときも、
Wie weh, wie weh, wie wehe	何という辛さ、悲しさ、苦しさを
Wird mir im Busen hier!	この私の胸が感じていることでしょう!
Ich bin, ich bin alleine,	私は、私はただひとり、
Ich wein', ich wein', ich weine,	泣きに泣きに泣きつくし、
Das Herz zerbricht in mir.	心碎ける思いです。

Erlkönig (魔王)

シューベルト作曲

夜更けに嵐の中を誰かが馬を飛ばして行く。それは小さな子供を抱えた父親である。子供の様子が普通でないのを見て父親がたずねると、子供は「お父さん、魔王が見えないの?」というけれど、父親には何も見えない。そこで彼は「あれは霧だよ」と答える。しかし子供の眼には魔王の姿が見えるだけでなく、お伽の国を見せて上げるからここへおいでと誘惑する魔王の声まで聞えるのである。そしてついに魔王につかまえられた子供は父親に助けを求めて叫ぶ。父親は夢中になって馬を飛ばし、漸く家に帰り着くが、見れば子供は抱かれたまま死んでしまっている。

Wer reitet so spät durch Nacht und Wind?	夜風をついてこんなに遅く誰が馬を駆りて行くのだろうか。
Es ist der Vater mit seinem Kind;	それはわが子をつれた父だ。
er hat den Knaben wohl in dem Arm,	父は少年を腕にかかえ
er faßt ihn sicher, er hält ihn warm.	しっかりと、つかんで、あたたかくかばっている。
Mein Sohn, was birgst du so bang dein Gesicht?	ほうや、何故そんなに脅えて、顔を隠しているのだ。
Siehst, Vater, du den Erlkönig nicht?	お父さん、魔王が見えないの
Den Erlenkönig mit Kron' und Schweif?	冠をつけ尾をたらしした魔王が見えないの?
Mein Sohn, es ist ein Nebelstreif.	ほうや、それは霧がたなびいているのだ。
“Du liebes Kind, komm, geh' mit mir!	「可愛い子よ、おいで、わしと一緒に行こう。
Gar schöne Spiele Spiel' ich mit dir!	お前と一緒に面白い遊びをしようね。
Manch bunte Blumen sind an dem Strand,	岸边には色とりどりの花がたくさん咲いている
mein Mutter hat manch gülden Gewand”,	わしの母さんは黄金の服を沢山持っているのだよ」

Main Vater, mein Vater, und hörest du nicht, Was Erlenkönig mir leise verspricht?
 Sei ruhig, bleibe ruhig, mein Kind;
 In dürrn Blättern säuselt der Wind.
 “Willst, feiner Knabe, du mit mir gehn?
 Meine Töchter sollen dich warten schön,
 mein Töchter führen den nächtlichen
 Reihn und wiegen und tanzen und
 singen dich ein”.
 Mein Vater, mein Vater, und siehst du nicht
 dort Erlkönigs Töchter am düstern Ort?
 Mein Sohn, mein Sohn, ich seh' es genau,
 es scheinen die alten Weiden so grau.
 “Ich liebe dich, mich reizt deine schöne
 Gestalt und bist du nicht willig, so brauch'
 ich Gewalt”.
 Mein Vater, mein Vater, jetzt faßt er
 mich an!
 Erlkönig hat mir ein Leids getan!
 Den Vater grauset's, er reitet geschwind,
 er hält in den Armen das ächzende Kind,
 erreicht den Hof mit Müh' und Not,
 in seinen Armen das Kind war tot.

お父さん、お父さん、魔王が私に低い声で約束する
 のがお父さんには聞えないの。
 心配しないで落ち着くのだよ、ほうや。
 枯葉に風がざわめいているのだ。
 「美しい子よ、わしと一緒にいこうね
 わしの娘たちにお前のお守りをさせよう、
 娘たちは夜の踊りの音頭をとり、お前を揺すり、舞
 いめぐって、歌をうたってお前をねかせてくれる
 のだよ。」
 お父さん、お父さん、そこの気味悪いところに魔王
 の娘たちがたっているのが、見えないの
 ほうや、みえるとも
 それは、古い柳の木が灰色にみえるのだ
 「わしはお前を愛する、お前の美しい姿がわしを惹き
 つけるのだ。どうしても嫌だと言うのなら腕づくで
 でもつれて行くのだ。」
 お父さん、お父さん、今魔王がわたしをつかんで離
 さない
 魔王がわたしをくるしめている。
 父は恐ろしさに身の毛がよだち飛ぶように早く馬を
 走らす。
 うめく子を腕にかかえて
 やつとの思いで家にたどり着けば
 その腕の中で子供は息が絶えていた。

ドイツ・レクイエム

ブラームス作曲

ドイツ・レクイエム（1868）の歌詞は死者のためのレクイエムで歌われるラテン語典札文ではなくて、ブラームス（Johannes Brahms 1833—97）が宗教改革者マルティン・ルター（1483—1546）のドイツ語新・旧約聖書の中から自分の考えで選んで構成している。したがって生者も対象にしたスケールの大きい、この独自の作品によってブラームスは人間の生と死を見つめ、問いかけたのだと言えよう。

重厚な美しさや深い味わいがあり、生涯の最高の作ともされるこの曲で彼は作曲家としての地位を確立したといわれる。楽章別には

I. 「かなりゆっくりと表情をもって」

悲しみに沈む者への深い慰めが心に沁み入るように歌われる。
 中間で涙の労働が報われる喜びも表わされている。

II. 「ゆっくりと行進曲風に — 速すぎないアレグロ」

人間は草や花のようにはかないのだと深く迫るように繰り返した後、しかし主の言葉は永遠に残る、と輝かしい響きになる。すぐ続いて後半は救われた者の喜びを高らかに示して静かに終わる。

III. 「適度のアンダンテ」

人の一生は本当にはかないとバリトン独唱と合唱が交互に訴え、私は主を待ち望む、と美しく結んだ後、変化に富んだフーガが、救われた者は神の手に守られる、と繰り返し強調する。

IV. 「適度に動いて」

天上の主の住まいに憧れる喜びと幸いを歌って、牧歌調ののびやかな調べとなる。

V. 「ゆっくりと」

ソプラノ独唱は、復活によって悲しみが確かな喜びに変わるというイエスの予言を伝え、合唱が母のように優しく包こむ慰めを示す。

VI. 「アンダンテ — ヴィヴァーチェ — アレグロ」

神秘を告げるバリトン独唱に導かれ、世の終わりのラッパが鳴りひびいて死者がよみがえり、死は克服されたと力強く輝かしい合唱となる。次いで創造主としての神をたたえる喜ばしく壮大なフーガで終わる。

VII. 「荘重に」

歌詞・旋律ともにIと対応している。こうして生きている者の幸いで始まったこのレクイエムは、この世の労苦から解放されて主のもとで永遠の休息に入る幸いが歌われる中、静かに全曲を終える。

(一部、門馬直美・丸山桂介各氏による) (B. 長尾)

I

〔合唱〕 Selig sind, die da Leid tragen,

悲しんでいる人たちは幸である

denn sie sollen getröstet werden.

というのは彼らは慰められるから

(マタイによる福音書：第5章 第4節)

Die mit Tränen säen, werden mit Freuden ernten.

涙で種をまく人たちは(収穫では)喜んで取り入れるだろう。

(詩篇：第126篇 第5節)

Sie gehen hin und weinen und tragen edlen Samen

彼らは大事な種を持って泣きながら出て行く

und kommen mit Freuden und bringen ihre Garben.

そして穀物の束を持って喜んで帰ってくる。

(詩篇：第126篇 第6節)

II

〔合唱〕 Denn alles Fleisch es ist wie Gras

というのは全ての人間、それは草のようで

und alle Herrlichkeit des Menschen wie des Grases Blumen.

人間の全ての栄光は草の花のようだ

Das Gras ist verdorret und die Blume abgefallen.

草は枯れ、花は落ちた

(ペテロの第1の手紙：第1章 第24節)

So seid nun geduldig, lieben Brüder,

だから今は耐え忍びなさい、愛する兄弟たちよ、

bis auf die Zukunft des Herrn.

主が将来現われるまで

Siehe, ein Ackermann wartet auf die köstliche Frucht der Erde

見なさい、農夫は大地の貴重な実りを待っている

und ist geduldig darüber, bis er empfahe den Morgenregen und Abendregen.

そしてそのために春の雨と秋の雨があるまで辛抱している

(ヤコブの手紙：第5章 第7節)

Denn alles Fleisch es ist wie Gras

というのは全ての人間、それは草のようで

und alle Herrlichkeit des Menschen wie das Grases Blumen.

人間の全ての栄光は草の花のようだ

Das Gras ist verdorret und die Blume abgefallen.

草は枯れ、花は落ちた

Aber des Herrn Wort bleibet in Ewigkeit.

しかし主の言葉は永遠に残る

(ペテロの第1の手紙：第1章 第24節)

Die Erlöseten des Herrn werden wieder kommen

主に救われた者たちは再び歸って来るだろう

und gen Zion kommen mit Jauchzen ;

そして喜びの声をあげてシオンへ来る

ewige Freude wird über ihrem Haupte sein,

彼らの頭の上には永遠の喜びがあるだろう

Freude und Wonne werden sie ergreifen,

楽しみと喜びが彼らをとらえるだろう

und Schmerz und Seufzen wird weg müssen.

そして苦痛とため息は去らざるを得ないだろう

(イザヤ書：第35章 第10節)

III

〔バリトンソロ・合唱〕 Herr, lehre doch mich, dass ein Ende mit mir haben muss,

主よ、私に教えて下さい、私には必ず終わりがあり、

und mein Leben ein Ziel hat, und ich davon muss.

そして私の生命には限りがあり、それを知らねばならないことを。 (詩篇：第39篇 第4節)

〔バリトンソロ・合唱〕 Siehe meine Tage sind einer Hand breit vor dir,

見なさい、私の日々はあなたの前では手一つの巾しかなく

und mein Leben ist wie nichts vor dir.

私の一生はあなたの前では無にひとしい

(詩篇：第39篇 第5節)

〔バリトンソロ〕 Herr, lehre doch mich,

dass ein Ende mit mir haben muss.

主よ、私に教えて下さい、私には必ず

終わりがあり、

und mein Leben ein Ziel hat, und ich davon muss.

そして私の生命には限りがあり、それを知ら

ねばならないことを。

〔合唱〕 und ich davon muss.

それを知らねばならないことを

〔バリトンソロ〕 Ach, wie gar nichts sind

alle Menschen, die doch so sicher leben.

ああ、まさに確かに生きている人間も

皆全く存在しないようなものだ。

Sie gehen daher wie ein Schemen

彼らはまるで影のように歩いて行く

und machen ihnen viel vergebliche Unruhe,

そしてむなしくも大いに騒ぐ

sie sammeln und wissen nicht, wer es kriegen wird.

彼らは集め蓄えるけれど誰がそれを所有する

のか知らない

〔合唱〕 Ach, wie gar nichts sind alle

Menschen, die doch so sicher leben.

〔バリトンソロ〕 Nun, Herr, wes soll ich mich trösten ?

だから主よ、私は何に安心できるでしょうか。

ああ、まさに確かに生きている人間

も皆全く存在しないようなものだ。

〔合唱〕 Nun, Herr, wes soll ich mich trösten ?

だから主よ、私は何に安心できるでしょうか。

Ich hoffe auf dich.

私はあなたを待ち望みます (詩篇：第39篇 第6～7節)

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand,

神によって救われた人の魂は神の手にあり、

und keine Qual rühret sie an.

そしてどんな苦しみも彼らにふりかかることはない。(旧約統編：ソロモンの智恵：第3章 第1節)

IV

〔合唱〕 Wie lieblich sind deine Wohnungen, Herr Zebaoth!

あなたの住まいはなんと好ましいことでしょう。万軍の主よ!

Meine Seele verlangt und sehnet sich nach den Vorhöfen des Herrn;

私の魂は主の前庭を求めあこがれる

mein Leib und Seele freuen sich in dem lebendigen Gott.

私の身体と心は生ける神に向かって喜ぶ。

(詩篇：第84篇 第1～2節)

Wohl denen, die in deinem Hause wohnen, die loben dich immerdar.

あなたの家に住む人たちは幸いである。彼らは常にあなたをほめたたえる。

(詩篇：第84篇 第4節)

V

〔ソプラノソロ〕 Ihr habt nun Traurigkeit, aber ich will euch wieder sehen,

あなたたちは今は悲しんでいる。しかし私は再びあなたたちと会う

und euer Herz soll sich freuen.

そしてあなたたちの心は喜ぶ

(ヨハネによる福音書：第16章第22節)

〔合唱〕 ich will euch trösten, wie einen seine Mutter tröstet.

人をその母が慰めるように私もあなたたちを慰める。

(イザヤ書：第66章 第13節)

und euer Freude soll niemand von euch nehmen.

そしてあなたたちの喜びを誰もあなたたちから取るものはない。

(ヨハネによる福音書：第16章第22節)

〔ソプラノソロ〕 Sehet mich an: Ich habe eine kleine Zeit Mühe und

私を見なさい。私がわずかな時間、苦労と

Arbeit gehabt und habe grossen Trost funden.

労働で多くの慰めを見出したことを。

〔合唱〕 Ich will euch trösten,

私もあなたたちを慰める。

Ich habe eine kleine Zeit Mühe und

私がわずかな時間、苦労と

(旧約統編：ベン・シラの智恵：第51章 第27節)

Arbeit gehabt und habe grossen Trost funden.

労働で多くの慰めを見出したことを。

〔合唱〕 Ich will euch trösten,

私もあなたたちを慰める。

Ihr habt nun Traurigkeit, aber ich will euch wieder sehen,

あなたたちは今は悲しんでいる。しかし

私は再びあなたたちと会う

und euer Herz soll sich freuen,

そしてあなたたちの心は喜ぶ

〔合唱〕 Ich will euch trösten, wie

und euer Freude soll niemand von euch nehmen.

そしてあなたたちの喜びを誰もあなたたちか

ら取るものはない。(ヨハネによる福音書：第16章)

einen seine Mutter tröstet.

人をその母が慰めるように私

もあなたたちを慰める。

ich will euch wieder sehen,

私は再びあなたたちと会う

(イザヤ書：第66章第13節)

VI

〔合唱〕 Denn wir haben hie keine bleibende Statt,

というのは私たちはこの地上には永続的な都を持たず

sondern die zukünftige suchen wir.

来るべき都を探しているからである。

(ヘブル人への手紙：第13章 第14節)

[バリトンソロ] Siehe, ich sage euch ein Geheimnis:

見なさい、私はあなたたちに神秘を告げる。

[バリトンソロ・合唱] Wir werden nicht alle entschlafen,

私たちは皆眠りにつくのではなくて

wie werden aber alle verwandelt werden;

私たちは皆一変させられる

[バリトンソロ] und dasselbige plötzlich,

in einem Augenblick,

そしてそれは突然、瞬間に

[バリトンソロ] Dann wird erfüllet werden

das Wort, das geschrieben steht:

そのとき書かれてある言葉(旧約ホセア書)が実現する

[合唱] Der Tod ist verschlungen in den Sieg.

「死は勝利に飲みこまれている。

Tod, wo ist dein Stachel? Hölle, wo ist dein Sieg? (コリント人への第1の手紙: 第15章第51~55章)

死よ、おまえのとげはどこにあるのか。冥土よ、おまえの勝利はどこにあるのか」と。

Herr, du bist würdig zu nehmen Preis und Ehre und Kraft,

主よ、あなたは栄光とほまれと力を受けるにふさわしい

denn du hast alle Dinge erschaffen,

というのはあなたは万物を創造されたから。

Und durch deinen Willen haben sie das Wesen und sind geschaffen.

そしてあなたの意志によって万物は存在し、また造られている。(ヨハネの黙示録: 第4章 第11節)

VII

[合唱] Selig sind die Toten, die in dem Herrn sterben, von nun an,

今から後、主に結ばれて死ぬ者は幸いである

Ja, der Geist spricht, dass sie ruhen von ihrer Arbeit;

霊は言う。「そうだ、彼らはその労苦から解放されて休む。

denn ihre Werke folgen ihnen nach.

その業績は彼らについて行くのだから」

(ヨハネの黙示録: 第14章 第13節)

(訳 B. 長尾)

[合唱] zu der Zeit der letzten Posaune.

最後のラッパの(鳴る)ときである。

Den es wird die Posaune schallen,

というのはラッパが鳴りひびき

und die Toten werden auferstehen

unverweslich,

死者は朽ちないでよみがえり

und wie werden verwandelt werden.

私たちは変えられるからである。

ごあいさつ

本日は、私ども宝塚混声合唱団の第9回音楽会へお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

これまで、私どもはこのような催しをリサイタルあるいは定期演奏会と呼んでまいりましたが、今回、音楽会と名付けることにいたしました。この呼び名を持つことにより、甘えを捨てて、音楽の質を楽しんでいただける催しにしたいと考えるものです。

今回の音楽会では、最初に井岡潤子、晴雅彦の両氏にソロステージをもっていただきます。両氏は、今最も注目を浴びている声楽家として、内外で活躍されております。井岡氏は、ドイツでのオペラ公演にひきつづき1年間彼の地で研鑽を積み、この春帰国されたばかりです。また、晴氏は7月には文化庁の公費留学生としてドイツへ旅立たれます。本日の音楽会はお二方の帰国歓迎・留学歓送の意味をも持つものとなりました。どうぞ心ゆくまで素晴らしい歌を楽しんでください。

さて、第二ステージでは、ブラームスの不朽の名作、ドイツ・レクイエムを井岡、晴両氏に独唱をお願いして演奏いたします。ご存じの様に、今年はブラームスの没後100周年にあたります。このドイツ語によるレクイエムは、普通レクイエムというと死者のための鎮魂曲とされるの対して、死者によって残された人の悲しみを慰めるものであるといわれております。歌詞はかのマルティン・ルターが訳したドイツ語聖書の言葉からブラームスが選び抜いたものです。今回この曲を歌うにあたって、私どもは国内で3ヶ月間にわたりドイツ語歌詞の研究会を持ちました。それは、この曲を作ったブラームスの深い心の裡にいささかでも迫りたかったからです。

私どもは、昨年三木稔氏のレクイエムを歌い、今年ブラームスのドイツ・レクイエムを歌うことになりました。はからずも、昨年死者の魂のために歌い、今年はこの世に悲しみとともに残されてしまった人びとのために歌うともいえます。三木氏は、私どもが同氏のレクイエムを先の震災で彼岸へわたった魂へ捧げて歌うよう希望されました。ブラームスも、私どもがこの曲を震災の犠牲者の遺族を含め此岸で悲しみに沈んでいる人たちのために歌うことを、心にかなうこととしてくれるでしょう。

平成9年6月 宝塚混声合唱団

本日の演奏曲の作曲者

モーツアルト、シューベルト、ブラームスは、皆様よくご存知のことと思いますので省略させていただきます。

コルンゴルト, エーリヒ・ヴォルフガング Korngold, Erich Wolfgang

(1897・5・29ブルノー—1957・11・29 ハリウッド) オーストリア=ハンガリー帝国生まれのアメリカ合衆国の作曲家。父親はオーストリアの高名な音楽批評家 ユーリウス・コルンゴルト Julius Korngold。神童のほまれ高く、1907年マラーに自作のカンタータ《黄金Gold》を聞かせた際、マラーは彼を天才と評し、ツェムリンスキーに師事するようにすすめた。11歳の作品、バレエ《雪人形 Der Schneemann》の初演(1910, ヴィーン宮廷歌劇場)は一大センセーションをひき起こし、続くピアノ・ソナタ第2番(1910)も高く評価された。管弦楽曲やオペラは R. シュトラウス、ブッチェニに強い印象を与え、彼らは最上級の賛辞を呈した。20歳で作曲したオペラ《死の都 Die tote Stadt》によって、彼の名声は頂点に達する。以後、彼はヴィーン国立音楽院でオペラと作曲を教え、オーストリア大統領から〈充分な敬意をもって〉教授の称号を贈られ、また1928年に〈新ヴィーン日報〉が行なったアンケートでは、シェーンベルクと並んで、存命する最大の作曲家と称された。1934年に渡米、ハリウッドで映画音楽を作曲する。1943年合衆国に帰化、この間2度オスカー賞を受けている。第二次世界大戦後は絶対音楽の分野にもどり、ハイフェッツやフルトヴェングラーなどにより作品が紹介される。1975年には、《死の都》がニューヨークで大盛況裡に復活上演され、交響曲嬰へ長調(1951-52)とともにレコード化もなされている。(音楽大辞典から引用)

レーヴェ, ヨハン・カルル・ゴットフリート Loewe, Johann Carl Gottfried

(1796・11・30 レーベユン [ハレ近郊]—1869・4・20 キール) ドイツの作曲家、オルガン奏者、指揮者。作品は、オペラ、交響曲、協奏曲、室内楽曲からピアノ曲、歌曲まで広範囲におよぶ。だが、ヴィーンのシューベルトと同じところにありながら、シューベルトよりもはるかに長い音楽活動を続けて、新しい歌唱理論をおし進めるとともに、数多くの歌曲作品を創作した。レーヴェは、幼いころから父親の音楽教育を受けた。彼の美声は、とくに注目されて、11歳でケーテン宮廷合唱団にはいり、さらにハレのフランク協会のギムナジウムに学ぶ。ここでダニエル・ゴットロープ・テュルクの薫陶を受け、ヴェストファーレン王ジェローム・ボナバルトから奨学金を得て、彼の音楽の勉学は大いに促進された。ハレの大学では神学を学び、その後、声楽アカデミーの会員に加わり、ギムナジウムの教授と合唱指揮者をつとめて、テュルクの後継者と目される。1821年、25歳でシュテッティン市の音楽監督と聖ヤコブス大聖堂のオルガニストに就任、だが彼は、教授と指揮活動に重きをおき、音楽生活は多忙をきわめた。1837年にはベルリン学士院会員に選ばれ、また各地の音楽祭に出演したり、ヨーロッパ各国を訪れて、いたるところで歓迎された。彼の歌曲は、368曲出版されている。簡潔な手法をとりながら劇的内容豊かな、その多くのバラード作品によって、レーヴェの名は高い。イギリスのバラッドから影響を受けたが、彼のそれは、あくまでもドイツの民謡やリート伝統のなかで創造されている。1882年には、ベルリン・レーヴェ協会が組織され、またグライフスヴァルト大学は、名誉哲学博士を贈った。(上野 晃) (音楽大辞典から引用)

1756 1791

モーツアルト

1796 1869

レーヴェ

1797 1828

シューベルト

1833 1897

ブラームス

1897 1957

コルンゴルト

[第9回宝塚混声合唱団音楽会]